

亜急性期以降の災害医療救護活動



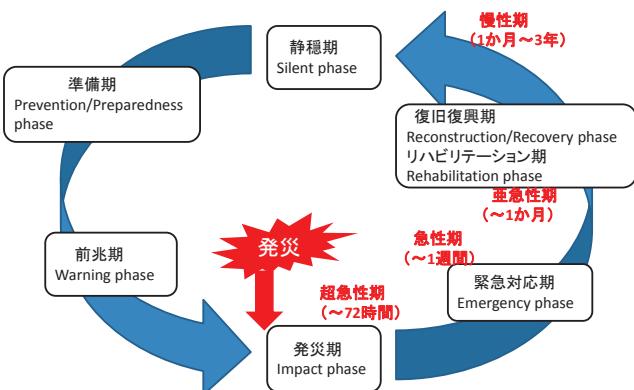
武蔵野赤十字病院
救急部長・日赤災害医療コーディネーター
勝見敦

亜急性期の災害救護活動について

- ・医療救護所
- ・巡回診療活動を中心

亜急性期以降の救護活動を考える

災害サイクル(Disaster Cycle)



(出典:日本集団災害医学会用語委員会企画・編集(2008年)日本集団災害医学会用語集CD-ROM)

災害の種類

自然災害 Natural Disaster	地震 津波 台風 洪水 火山噴火 山崩れ 土石流 干ばつ など
人為災害 Man-made Disaster (Human caused Disaster)	大規模交通事故:多重衝突事故 航空機事故 列車事故、船舶事故 技術事故災害 Technological disaster; 原発事故 工場火災・爆発 化学物質漏洩 など 戦争・紛争型災害(犯罪 テロ 武力衝突など)
環境災害 Environmental Disaster	地球温暖化 異常気象 海面上昇 大気汚染 など
人道的緊急事態 Complex Humanitarian Emergency	民族紛争 国内避難民 難民 など

(大友康裕:災害のとらえ方 災害救護)

救護班活動状況



震災発生から1ヶ月間の主な団体の医療支援者数

広汎な医療団体・組織が災害医療に参加

団体名	人数
日本赤十字社	2,700人
全日本医民連	1,840人
日本医師会	1,800人
DMAT	1,500人
徳洲会と関連団体	626人
日本看護協会	578人
日本歯科医師会等	518人
日本薬剤師会、 日本病院薬剤師会	515人
国立病院機構	423人
大学医学部	411人

※平成23年4月16日「読売新聞」朝刊より抜粋

被災地での医療支援活動

- ・病院支援
- ・医療搬送（地域、広域）
- ・医療救護所診療
- ・巡回診療など

被災地域の医療状況で
支えるべき医療の活動場所、医療支援内
容を決定する



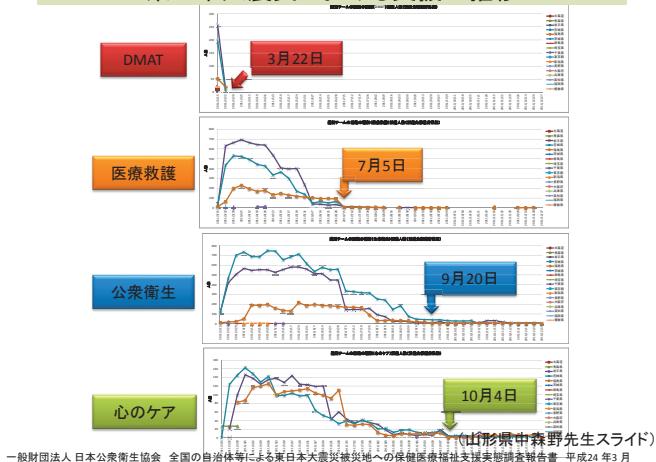
病院支援、救護所診療、巡回診療にしても
これらの活動は別個に存在するものでない。
時相ごとに、医療ニーズに即した、
被災地での各々の位置づけをとらえ、
災害医療活動を提供することが重要となる。

情報収集力とコーディネーション力

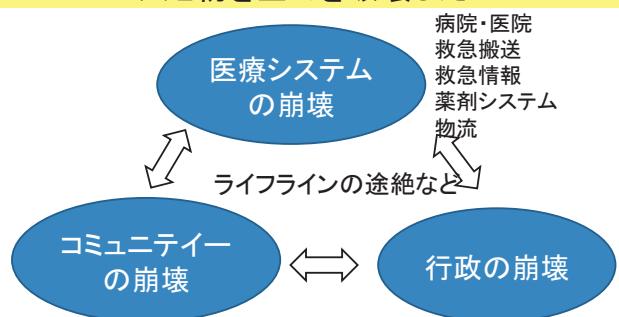
A. KATSUMI Japanese Red Cross

Musashino Hospital

東日本大震災における支援の推移



東日本大震災→地震+津波(+原発) 人と物を全てを破壊した



地域自治会、家族

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

市町村役場、保健所(保健師)
消防署など

災害時の医療対応

被災地医療施設

支援の優先順位
病院(既存医療施設)

→医療資源の集中化

医院閉めるか、再開するか
薬局は？

「災害時＝災害拠点病院」はなく、
地域での医療の役割分担

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

救護所診療、巡回診療活動を考える

医療救護所について

(医療) 救護所

=重要な医療救護活動の一つ

医療救護戦略を考える上で
役割を分類することは重要



医療救護所はどこにできる?
どんな役割をしているのか?

医療救護所

○現場救護所（局地災害などの災害現場に設置）

○避難所医療救護所（各避難所に設置）

○病院前医療救護所（病院前、近傍に設置）

○拠点医療救護所（広域災害時）

平成25年度厚生労働科学研究費補助金健全安全・危機管理対策総合研究事業
「災害における医療チームと関係機関との連携に関する研究」
「日本赤十字社との連携に関する研究」 報告書 一部改訂 より

医療救護所の役割の共通認識

どのような目的で救護所を設置するのか
役割、フェーズによって異なる

避難所医療救護所



2011年3月22日 岩手県山田町 大沢小学校

東日本大震災での医療救護所活動 石巻赤十字病院



石巻市内86の病院・
クリニックのうち
80施設が機能停止！

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

拠点医療救護所



平成23年3月13日
日赤兵庫県・静岡県支部が設置

(平成23年3月30日撮影)

岩手県釜石市 鈴子広場医療救護所
釜石地域沿岸部救護活動拠点となる

岩手県 釜石医療圏 釜石市・大槌町 人口6万



A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital



死者・行方不明者2000人以上
診療所10か所(20か所中)全壊
県立大槌病院 全壊
県立釜石病院 機能低下→1/10

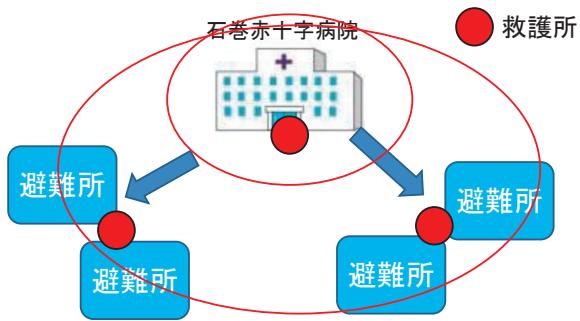
病院前救護所



病院の玄関前に
軽症対応に救護テントを設置

3月15日撮影 石巻赤十字病院
A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

石巻赤十字病院での救護所設営



病院の医療供給体制を守るために救護所を設置
→病院前救護所(緊急医療救護所)
救護所をたてる(運営するのは)支援医療救護班 (内外)

巡回診療

- ・避難所
体育館、公民館、学校、お寺、
- ・交通機関の要所
駅、空港
個人宅
- ・老人ホーム、施設 など



巡回診療すべき場所 →人が集まるところ、居るところ。

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital



巡回診療 公民館 集会場

2011年3月31日 小槌地区



不安の中 多くの方が私たちを待っている 3月16日

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital



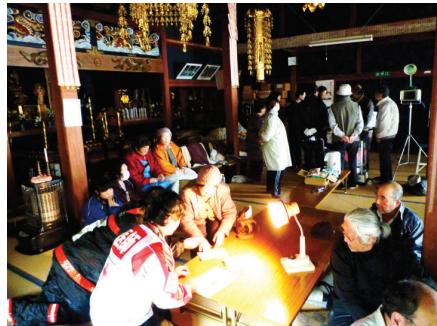
巡回診療 個人住宅

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital



こんな所も資材を持って巡回診療
(岩手県)

【第10班:4月19~24日】
(岩手県釜石市)
未だに町中に横たわる船舶



災害時、お寺はコミュニティーの核となっていた

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital



A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

巡回診療での救護活動内容

被災地に必要な医療は「治療」だけではない

発災～48（72）時間

外傷治療、急性疾患 等

要援護者はいるか？

情報伝達

対策本部へ 衛生、環境状況など

48（72）時間～1, 2週間

内科疾患、健康チェック、環境整備 こころのケア

1, 2週間～2, 3ヶ月

健康診断・チェック、定期処方箋

環境状態チェック こころのケア など

どこにあるのは？



2011年4月 釜石地区巡回診療用申し送り地図

持つていきたいツール

- ・情報手段
 - －衛星携帯、無線、携帯電話
- ・地図
 - －地図（紙）、携帯・スマート、ipad、PC
- ・申し送り
 - －アセスメントシート、患者情報（カルテ）など
- ・地元民
 - －「地理に詳しい」「土地勘がある」人
保健師さん
- ・もちろん、医療資器材
- ・隊員の食事と水

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

救護班と避難所との取り決めは？

順	場所名	代表者	電話番号	特記
1	金沢役場支所	〇〇〇子	①0193-07-2004 ②090-9006-9007	鈴子広場出発時、①へ電話すること。 ①出発時に、②に向かうことを伝える。
2	金沢生活改善センター	〇〇〇男	0193-06-2009	②出発時に、③到着の大まかな予定時間を伝える。
3	かみよ稲穂会館	担当 保健師	0193-02-2400	④に対し、少なくとも到着予定時刻の30分前に電話すること。
4	千田精密機械工業	〇〇〇助	①000-2006-9006 ②080-2001-1500 ③080-0011-1006	但し、12時から13時の間は避けること

※地図...別紙
※各巡回所終了時に次に向かう救護所に到着予定時刻を代表電話に連絡する。

※金沢小学校は、4月13日に巡回終了。
※一部携帯、不通エアリあり。AU不通。

主事(ロジ)申し送りノート

2011年4月 釜石地区巡回診療用 申し送りノート

医療を実施するということとは

医療とは

点滴をすること、薬頼方すること。

・平時の地域医療はコミュニティーに支えられている

・災害時にはその基盤は機能低下あるいは崩壊
→災害時医療は地域の基盤立て直しから
立て直しのための情報収集
いかに信頼関係を築けるか

Musashino Hospital

救護班活動の留意点

(2011年3月28日 第2ブロック支部救護本部通知)

- ・避難所内の救護所、各避難所への巡回診療での視点
 - －治療だけではない。異常を早期に感知する（予防）。
- ・地域保健行政との情報共有
 - －得た情報を災対へ。感染性、精神疾患など。
 - －ミーティング参加（必要に応じて職種別に）
- ・他機関の救護班との連携

避難所巡回診療アセスメントシート v.1.4		日本赤十字		
平成23年	月	日	（　）	救護班名
巡回時間				記録者
避難所名・個人名	記録者	調査	約	rf
避難所責任者またはキーパン	氏名			
その他の医療チーム				
医療	精神保健	トイレ	看護	備考
保健・ライフライン	水道	通路	電気	その他
○△×	環境空気			
記録者	名	うち避難者	名	名
診療	名	内科系	名	名
歯科	名	うち歯外	名	名
(便) 転送	名	外科系	名	名
ここらのクマニーズ あり ———— なし				
その他ニーズ				
★付記事項等 天気 気温				
コマンド 避难 C 安全 S 避难 C 許可 A 避難 D				
日本赤十字社関東支社				

避難所アセスメント

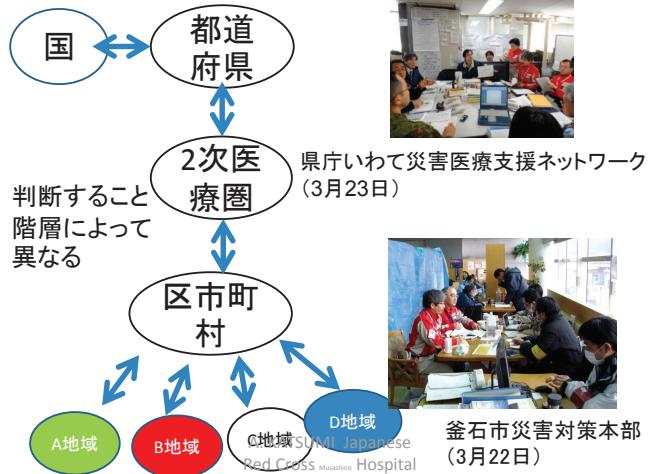
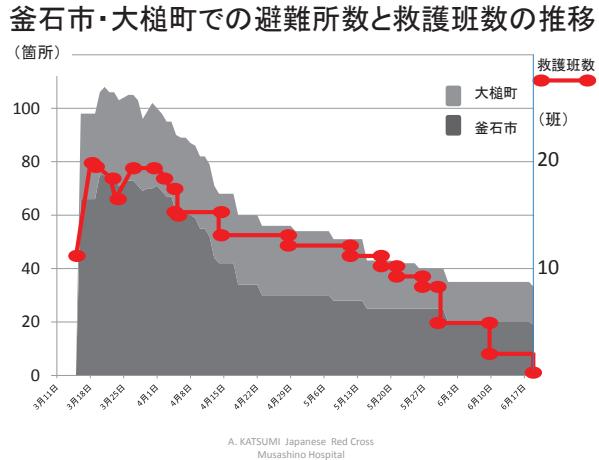
巡回診療

アセスメントシート
の活用

継続的な評価をする

簡便な引き継ぎが可能
避難者の負荷軽減

支援医療救護班の調整



釜石市災害対策本部 医療健班のミーティング



災対だけでなく、他救護班、組織
との連携(声掛け)も

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

3月30日



5月5日

引き継ぐ

チーム内

救護班間、
医師、看護師、主事、薬剤師間

チーム外

他組織・機関の救護班間



大事なカルテを引き継ぎ

金石市鈴子広場日赤救護所
平成23年5月18日

6月19日で被災地外救護班が全撤収
シームレスな撤収を支えた

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

撤収する

撤収

被災地での救護所、巡回診療を終了で考えるべきこと

－医院・クリニックなどの医療施設の復旧度

－患者数

－交通機関の復旧 など

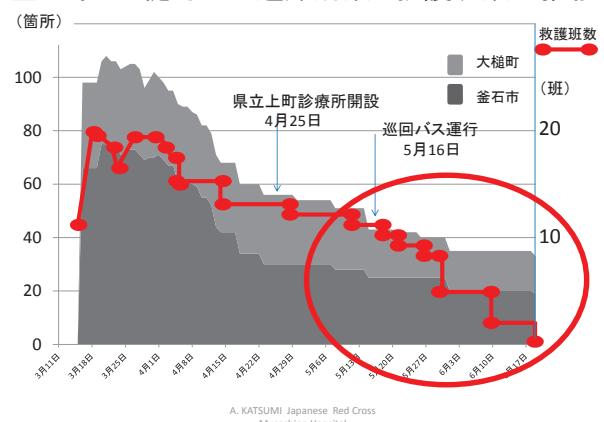
・組織(人)

－医師会、災害(医療)対策本部、保健所

－被災者住民(の声)

これらと総合して判断することになる

釜石市・大槌町での避難所数と救護班数の推移



釜石地区での救護班撤退のめど

・医療施設の立ち上がり

仮設県立大槌病院、医院の開業再開

・仮設住宅への入居の見込

釜石市6月末 大槌町7月末

・巡回バスの運行遅延 (5月16日～)

釜石医師会災害対策本部と協議の上、

6月19日で医療救護班撤退決定

A. KATSUMI Japanese Red Cross
Musashino Hospital

災害医療を実践するために

医療人としての係り方

→まずは自分自身の医療能力のスキルアップ

→平時の医療をしっかり実施

→地域の仕組みを知る

→平時の地域医療を守ることを考えてみる

→災害医療対応を勉強してみる

→災害医療対応は特殊なものでないことに気づく

災害医療もあたり前に実施していることになる

1人1人が地域を守る

当たり前のことを見つめなおす

力を合わせれば戦える！